

## 会 議 議 事 録 (要旨)

会議等の名称	令和2年度第2回磐田市子ども・子育て会議
担当部課名	こども部こども未来課
開催日時	令和2年12月11日(金) 14:00~16:00
開催場所	iプラザ2階 ふれあい交流室1・2
出席者	出席委員(敬称略10人) 漁田 俊子、鈴木 敏弘、中村 友子、間渕 恵梨佳、山下 健太郎、 望月 沙登美、鈴木 将弘、梶山 美里、平野 恵美、江塚 会里  事務局(11人) ・こども部長 鈴木壮一郎 ・教育部 放課後児童支援室 室長 内野恭宏、主任 松島優 ・こども部 幼稚園保育園課 課長 川島光司、課長補佐 伊藤里香 総務G G長 三谷昌史 こども未来課 課長 伊藤修一、課長補佐 高杉順也 こども支援G G長 岡田佐栄子、主任 鳥居良之 主事 清水駿介
議 題	(1) 「(仮) 幼児教育保育推進計画について」 (2) 子育て支援センターに関する施設整備・運営について
配付資料等	資料1 今後の計画について(幼稚園保育園課)

1 開会	
2 議題等	
会長	<p>議題1「(仮) 幼児教育保育推進計画について」です。 では、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (こども未来課)	<p>事務局説明 (資料1：(仮) 幼児教育保育推進計画について)</p>
会長	<p>事務局からの説明について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>午前中アイプラザで会議がありましたので、2階の離乳食教室や1階の子育て支援センターを見学しました。どちらもコロナ禍の状況に配慮した運営がされていましたが、子育て支援センターにもっと参加したい、行きたいと思っている人はいるのではないかなと思います。前回の議事録を見ても、子育て支援センターの役割に大きく期待する声が多くありました。小さい頃の子育てから学齢期、思春期、中には大学生になっても子育てということ、長く子育てをしなければならない時代となってきています。</p> <p>今のコロナの状況下で、子どもたちの個性を探りながら健やかな成長につなげていく、特に私は人間生活の基本は、知識、理解も大切ですが、人間同士のふれあいの中で生じてくる知恵をどのように高めてあげるかということも大事なことだと思います。</p> <p>先ほど、幼稚園保育園の再編の説明がありましたが、今は幼稚園、保育園がこども園に再編されていく傾向が強いですが、そうしたことを市が率先してやっていくということで、心強く感じました。</p>
会長	<p>他にご意見が無いようですので、次の議題に移ります。</p>
	<p>次に、議題2「子育て支援センターに関する施設整備・運営について」に移ります。まず、①「施設整備計画の考え方・策定の方法」について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (こども未来課)	<p><b>【事務局説明要旨】</b>(資料なし) 子育て支援センターの施設整備計画の考え方・策定の方法について、単独の整備計画ではなく、(仮) 幼児教育保育推進計画の中で、幼稚園</p>

会長	<p>保育園の再編と一緒に検討していくこととします。</p> <p>空白地への新設について検討した場合、土地を確保して新設、こども園の改築等の際に園内にスペースを確保、こども園に限らず公共施設の中にスペースを確保する等の手法が考えられます。その場合、単独の計画よりも関連する計画の中と一体的に検討したほうが、より有効な方策を導くことができると考えられるため、(仮) 幼児教育保育推進計画の中で検討していくこととしました。</p> <p>事務局からの説明について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>こども園等に限らず、公共施設の中にスペースを確保する等の手法について、もう少し具体的に説明してほしいです。</p>
事務局 (こども未来課)	<p>こども園などの子育て関連施設に限らず、このiプラザの1階にあるように、例えば図書館の一角に子育て支援センターを設けるであるとか、交流センターの一角に設けるであるとか、公共施設の利活用の大きな考えの中で、どこに設置するか考えるというのですが、どちらかという、まずは子育て関連施設の中で検討することを優先したいということで、一体の計画の中で検討したいということです。</p>
委員	<p>ありがとうございました。0歳児から保育を申し込む親もいますが、子どもが3歳になるまでは、自分の手で育てていきたいという親もいると思います。そういう親のために、各地区の交流センターや図書館などが利用できたらということを考えています。</p> <p>保護者にとっては自分の家で育てるといって、動かないうちはいいですが、動くようになると、外で遊んでおいでという時代ではないので、保護者が気軽に行ける場が自宅の近くにあればいいと思うし、ぜひそうしたものを実施してほしいです。</p>
事務局 (こども未来課)	<p>補足で説明します。先ほどの事務局説明は、子育て関連施設の見直しに、公共施設も絡めたいというものでしたが、例を出しますと、磐田市は車社会ですので、車がないと生活しにくい。そのため駐車場も必要。子育て支援センターでイベントを開けば10台から15台の車が集まってきます。そうした場合に、駐車場をキープし、数千万をかけて新しく土地を購入し、数億円かけて建物を建てる。これは市民の皆様からいただいた税金を費用対効果を考えて活用するには、かなり難しい部分があります。</p>

しかし、公共施設は合併以後、色々な施設に空きがあり、目的を達成した施設もあります。そうした施設をリニューアルしながら、駐車場を共有しながらやっていくことで、少ない費用、短い期間で新しい施設が建てられる、そういうイメージで考えたいということです。

しかしながら、子育て支援センターだけの計画を立てるといっても、なかなか難しいので幼稚園・保育園の再編に合わせて、子育て環境を一体的に考えていこう、そして計画の名称ですが、幼稚園保育園再編計画というと幼稚園・保育園を再編しますというと、建物だけの整備のようにイメージされますが、新しい子育てには何が有効か、何が必要か、そうしたソフトの部分もその計画の中に盛り込んで、全体的に支援していきたいと、そのようなイメージで説明させていただきました。

会長

ありがとうございました。

他にご意見が無いようですので、次の議題に移ります。②「子育て支援センターの運営指針」について説明をお願いします。

事務局

(こども未来課)

【事務局説明要旨】(資料なし)

子育て支援センターの配置等の施設面については、(仮) 幼児教育保育推進計画の中で検討していくこととしましたが、運営面のソフト的な部分については子育て支援センターの運営指針として、今年度様々な意見を踏まえて策定し、来年度以降の運営に反映していきたいと思えます。そのために2点について委員の皆様の意見を伺いたいと思えます。

① 家に閉じこもりがちな親子の子育て支援センターへの来館促進策について

② これからの子育て支援センターに求められる機能等について

会長

2点議題がありますので、分けてご意見を伺います。

始めに、家に閉じこもりがちな親子の子育て支援センターへの来館促進策についてです。

私は静岡県教育委員会の委員もしていますが、そちらの会議でも同様の話が長年にわたり出ています。家に閉じこもりがちだけではなく、例えば園が来てほしいと思う時に来ない保護者、家庭の状況が見えない保護者、支援策を検討してもその当人たちが出てこなければ支援につながらないということで、長年の課題になってはいますが、なかなかいい案がでてきません。

今回は議題として提示されていますので、どんなものでも結構ですので委員の皆さんのご意見をお願いします。

会長

以前、他市の校長先生とお話したときに、いい案の1つとして、夜の学校探検というのがあるよと教えてもらいました。夜6時から8時くらいに普段は見られない暗い校舎を探検するというもので、普段は出てこないような保護者も出てきたそうです。

もう1つのうまくいった例としては、閉じこもりがちな人、来なさいよではダメで、全然違うネタを作っておくと出てくることもあるようです。草むしりや学校の修繕などをお願いすると、普段会えない保護者に会えることもあったり、助けてあげるよではなく、逆に助けてとお願いすると、そこからつながることもある。そんな明るい筋道があるといいと思います。何でもいいので、意見をお願いできればと思います。

委員

閉じこもりがちな家庭というのは、ある程度、市でも早い段階、生まれて間もない段階で把握できるのではないかなと思います。例えば新生児訪問の際に居留守を使う、応じない、健診に来ないなどで判断できると思います。ただ、そこから先をどうするかは難しく、いいアイデアがすぐには浮かびません。ただ、自分の経験からすると、こういう家庭は1回のアプローチでは効果がないので、繰り返しアプローチできる何かがあるといいのかなと思います。

会長

ありがとうございます。

委員

最初に閉じこもりがちな親子と聞いたときに、その親子を既に把握できていて、そこに焦点を当てたいのかなと思いました。

先ほどの委員のお話にもありましたが、市で把握できているのであれば、その方たちへのPRが必要だと思います。

「わわわ」の支援センターのページを見させてもらいましたが、どこのセンターもすばらしい内容でイベントも盛りだくさん、毎日やっていて、土日もやっているところもあるという、そういういい面を新生児訪問で知らせるだけでなく、毎年子育て家庭の方に配布してはどうかなと思います。冊子でなくても、支援センターの案内だけでも、とてもいい内容で書かれていますので、もったいないと思いましたので、そういったPRをしていったらいいと思います。

あとは保育士も常駐しているということで、親子とつかず離れずの関係づくりを強くしてもらって、保育士に育児のことなどを相談でき

	<p>て、また行きたいな、また会いたいなって思ってもらえる関係づくりを重視してやってほしいなと思いました。</p> <p>あとは、行ったことのない親子は、もうママ友のグループができているのではないかと、そういう不安を抱いていると思うので、そうしたマイナスのイメージをなくす取り組み、具体的には思い浮かばないですが、誰でも気軽に来られる、親子だけでなく、おばあちゃんと一緒に来てもいいし、いろんな人が利用できますという風にPRしていくのもいいのではないかと思います。</p> <p>それから、②の、これからの子育て支援センターに求められる機能等については、保健師などの専門職の意見を大事にしている保護者もいるので、支援センターで保健師への相談ができる体制があるといいと思います。そうすれば、そこから発達のことなど親子の困りごとの解決につなげることも可能だと思うので、そうしたものがあればいいと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>そもそもの話ですが、閉じこもりがちな親子というのは、こうした情報があっても、アンテナを張っていないので、あまり興味を示さない、さらに、支援センターが近隣にあれば行くと思いますが、そうでないとすると、ハード的な面でこうした家の人や家の近くに支援センターがないという状況では、根本的な解決につながらないのかなと思いました。どこの地域でも気軽に距離感を感じないコンビニみたいな感覚であるというのが大事なのかなと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。コンビニみたいな感覚というのは1つ「キーワード」かなと思いますが、立地の問題はこれから考えていっていただけたらということであれば、コンビニ的はなかなか面白いキーワードかなと思います。</p>
委員	<p>今回の議題について自分なりに考えてみたとき、公園とか買い物に出かけるくらいの気軽な感覚のものに支援センターがなればいいなと思いました。公園でも、今日はちょっと雰囲気があわなさそうだからやめておこうとかが可能なので、それくらいの位置に支援センターがなればいいと思います。</p> <p>議題にある、閉じこもりがちな親子というのは常に閉じこもりがちな親子だとアプローチの仕方が難しいと思いますが、今育休をとる方も多いので、例えば1年経ったら保育園に入るから、それまでは周り</p>

とあまり関わらずに過ごすという考えの人もあるし、自分自身を振り返った時、産後2か月後くらいに保健師が来てくれて、そこで子育て支援関係の情報をもらえると思いますが、自分自身は仕事をしてきていたので、そういう場で無理をしてママ友達を作らないといけないとは思っていなかったですが、子どもの成長は知りたいと思ったので、身長体重を測ってもらえるイベントには行きたいと思い、行っていました。

なので、そういうとりあえず行ってみようというきっかけでセンターに行って、そこでもう1回行ってみようかなという風にその親子が感じてもらえれば、次のチャンスが来るのかなと思います。

今、市の幼児健診の時に「にっこにこ」を利用している方もありますが、「にっこにこ」だけでなく、住んでいる近くのセンターでも皆さんが参加するような催しがあると、1つのセンターから他のセンターつなげていくチャンスもあるのではないかと思います。

会長

ありがとうございます。身長を測りに行くというのも気軽なきっかけで良さそうですね。雰囲気を見てやめておこうというのも非常に重要なことで、ひよっとしたら覗いているかもしれないけど、キャラクター的に入りにくい保護者っていると思います。ママ友同士の固まりができていて入りにくいとか非常に多いと思います、ただ、色々なセンター覗いてみて、入れるところもあると思うので、議題の②にも通じますが、色々な機能がありますよね、例えば食べ物の関係をやっているセンターもありますし、色々な機能や雰囲気を見ながら自分にあったセンターを選べるようにする。それが来館促進と、子どもを助けることにつながると思います。

委員

意見を言えるほどではないので、逆に質問したいのですが、支援センターの写真を見て、こんなにたくさんあるんだなと思いました。それぞれの支援センターは、規模や来館者の数などが違うと思うんですが、来館者数について、休日と平日でも違うと思いますが、大まかでいいので教えていただければと思います。

事務局

(こども未来課)

市政報告書という磐田市が1年間やってきたことの報告書がありまして、それに掲載されています。子育て支援センター全体で年間約8万人の人が利用しています。また、子育て支援総合センターというところもあり、そこはファミリーサポートセンターという事業をやっていて、放課後児童クラブに迎えに行けないときに少しお金を払ってもらって迎えをお願いするとか、母親のリフレッシュのために一時的に

子どもを預ける一時預かりなどを実施しているのが総合センターになりますが、そこは年間約2万3千人の人が利用しています。

各センターの特色としては、このiプラザの1階にある「にっこにっこ」の利用者が1番多く、年間約1万7千人ほど、それ以外のセンターは1万人弱の利用者となっています。ただ、これは延べ人数なので、利用者は行事の予定などをSNSなどでママ友と連絡を取りながら誘い合って利用しているので、1人の利用者が週2回3回と利用しているのもカウントされていますし、初めての利用者もカウントされているということで、そういった点については、どういった方がどれくらい利用しているかということはこれから再調査をかけて細かく分析をしながら、今日皆さんに議論いただいている課題の解決に向けて取り組んでいこうというような状況です。

委員

ありがとうございます。自分の子どもはもう大きく、かなり以前に子育ては終わっていますが、自分の子どもは二人とも野球が好きで野球の少年団に入っていました。今いろいろな人の話を聞くと、どこのスポーツ少年団も人が集まらず、非常に困っていると、何とかしなければならないという話を聞きます。例えば、支援センターは年齢の小さいお子さんが多いと思いますが、スポーツ少年団の人に支援センターにきてもらって、遊びを兼ねた運動などを指導してもらえると、少年団側の入ってほしいという事情もあるので、いろいろ協力してもらえないかと思いました。

会長

ありがとうございました。

委員

閉じこもりがちな親子の母親の心理状態を考えたとき、自分も1人目の時は、どちらかという閉じこもっていたほうで、当時は外に出るメリットを感じませんでした。結局、他の親子と自分を比べて、あの家はキラキラしているのに自分はダメなんだろうという感情になり、家にいたほうが自分を守れました。なので、外に出ていく意味がわからない、買い物にいけるし、公園にも行ける、けどさみしい、外に出たい、誰かとしゃべりたい、でも自分を守りたい、というループがあるのかなと、自分の当時のことを思い出します。

理由は様々だと思います。支援センターに行くメリットを感じないから閉じこもっているように見えるのか、それとも本当に人と接することが嫌なのか、自分を守るために外に出ないのか、理由は様々だと思います。一つの方策で全員が来るようになるのは難しいと思います。なので、そのお母さんがどうしたいのか、閉じこもって人と接しない



会長

ほうが楽ですという、オンラインで会話もできるのでさみしくありませんという方なのか、やっぱり誰かとしゃべりたいという人なのかで違うと思います。お母さんにとってメリットとなるものを探してあげることが必要なのかなというふうに感じました。

ありがとうございます。今のお話で核心をついているのは、閉じこもるということ自体がどういう意味であるのかということ、色々な事情がそれぞれにあるので、それぞれで解決の仕方は異なるんだろうけども、それでもなお、考えていかなければならない問題だろうと思います。

委員

私は子どもが1人で、今は大きくなって落ち着きましたが、生まれてすぐのころは、1年経てば保育園へ預けるし、支援センターに魅力があって、行かなければという感じでもなかったし、本人の感覚的な面で、閉じこもる理由というのが、本当に社会的なサポートが必要な閉じこもりと、単純に自分の家庭の中で子育てが完結できる閉じこもりとあると思うので、どちらかというところの来館促進が必要な閉じこりの親子というのは、サポートが必要な人ということだと思いますよ。色々な意見を聞きながら考えましたが、今のお母さん世代は SNS 世代だと思います。どんなアプローチが効果的かと考えたときに、やっぱりスマホかなというふうになりました。

ちょうど、「わわわ」に「いわた子育てアプリ」というのがありますが、これはダウンロードしなければいけない。市の広報は毎月回ってきますが、結局ペーパーベースのものは、今の若い人は見ないというのがあり、やはり SNS 発信のほうが、若い世代のお母さん、お父さんには効果的で、その SNS 発信をするために、登録してもらわないといけない。どこで登録してもらうのが1番いいのかと考えたとき、母子健康手帳を発行するときに1番いいのかなと思います。そこをきっかけに以降は SNS を使って、子育て情報や支援センターの情報を発信していくことがいいのかなと思います。

閉じこもりがちな親子にどうアプローチするのがいいのかなというところ、その方法があるのかなと思いました。

閉じこもりがちでも、それで子育てがうまくいってればいい、うまくいっていない閉じこもりがちな人をどうするかという時には、こういう方法が今の世の中の1番いい方法なのかなと思います。そういう人たちは、人と人の付き合いを避けたい傾向があると思うので。

委員

磐田市でも Twitter とか Facebook をやられてますよね。

事務局  
(こども未来課)  
委員

やっています。

そこで、こども未来課からしゅぺいなどを使って、情報発信というのはしていますか？

事務局  
(こども未来課)

まず、アプリについての説明をさせていただくと、平成 29 年の 9 月から開始し、約 3 年たちます。主には、母子健康手帳を発行するときに、ダウンロードしていただきますが、市としてもアプリに定期的に子育て情報を配信しています。

また、子どもの予防接種の管理が非常に難しくなっており、予防接種のスケジュール管理の機能がついたアプリになっているので、そちらを使いながら、配信される情報も見てくださいねという形で情報発信をしているところです。

市の公式の Twitter は広報の部署で管理していますが、それを使って子育て情報を発信しているという状況ではなく、自分の課で管理しているアプリを使用しているというのが現状です。

委員

以前アンケートをとったことがあります。その時、200 人くらいのお母さんから回答をいただきましたが、その中で子育て情報をどこから取得していますかという問いについて、ホームページと広報が半数を占めました。なので、紙媒体で見ている方と媒体を使ってホームページを確認している人はすごく多いので、Facebook、インスタ、Twitter などは有効活用できるのではないかと思います。

事務局

市のインスタグラムは 6,500 人ほどのフォロワーで、県下 2 位くらいフォロワー数があります。若い世代は Twitter で色々情報をとる、40 から 50 歳台は Facebook、すべて情報を取得する層が違います。

ですので、今ご提案をいただいたように、一番子育て世代のお母さん方が使用するツールを使って、発信していくというのはとても効果的だと思います。参考にさせていただきます。

しかしながら、様々な事務がある中で、Facebook、Twitter、インスタグラム、ホームページを管理するというのは、非常にマンパワーがかかります。

そこで、専門部署として広報が一元管理をしています。今回のコロナの情報の発信も困難な状況の中で対応しており、子育て情報を有効に出すところまで追いついていないという状況もありますので、ぜひ、この会議でそうした提案をどんどん出していただいて、この記録は公

式に残っていきますので、皆さんの力を借りて、子育て支援について前を向いていきたいと思っています。

委員

明らかに問題があって閉じこもっている家庭というのは、個別の話になってくると思います。なので、支援センターの施策でどうこうするというのはなかなか難しいとも思います。この議題にある閉じこもりがちな親子であれば、例えば、本当はいろいろなところに相談したいけど、支援センターも知っていて少し気になるけど、人と接するのが苦手だとか、家から出るのがなという人くらいであれば、健診とかぐらいであれば来ると思うので。来てくださいと言うと来るともあると思うので、そうしたちょっとしたイベント、例えば、子育て環境の調査を定期的にするようになったので月1回来てくださいとか、そうしたものを作ると、仕方がないかなと足を運んでくれて、そこから支援センターに慣れていくことが出来れば、閉じこもりがちな方も少しは外に慣れてきて、支援センターに来るようになるのかなと思いました。

会長

確かに、この議題は閉じこもりがちな親子なので、ちょっと楽しかったなと思えば、また行こうにつながるという、そのレベルの親子をどうしようかという、アイデアをいただきたいというのがテーマになります。

先ほどご意見のありました身長を測りに行こうかな、でもいいし、聞き取り調査のお願いでもいいし、そうしたアイデアをぜひいただきたいと思っています。

委員

自分のことに置き換えて考えてみますと、3人の子どもを育てていて、結婚出産のタイミングでずっと仕事を辞めている状態です。

3人のうち上2人の時は、支援センターを積極的に使用していましたが、末っ子の時は正直まったく利用していません。

なぜなのかなと考えたところ、メリットがあったから行っていました。上の2人の時に行ったメリットというのは、学区内の情報がどうしても欲しかったこと、幼稚園の入園だったり、小学校入学のタイミングで必要なものや、どこの幼稚園、保育園がいいよといった情報がどうしても欲しくて、お母さんたちの輪に入っていったのと、ママ友を作ることで、子どもが幼稚園に入った時に、スムーズに遊べることを目的として、利用するような形で支援センターに行っていました。

なので、先ほどお話がありましたが、空白地域、特に学区ごとには支援センターを設置していただけると、お母さんは利用しやすいのか

などと思います。

あと、2番目の子の時によく行ったのは、上の子と真ん中の子が2歳差で、上の子は動くんですが、下の子はごろごろ寝ている状態なので、上の子は家に居るとどうしても遊べない、けど遊びたいということだったので、支援センターに行って、下の子はベビーベットに寝かせてもらって、上の子は思い切り遊ぶという、そういう場所がどうしても欲しくて行っていました。下の子が安全なところでいて、保育士さんに見てもらったりしながら、上の子とたっぷり遊ぶ時間を支援センターで設けていただけると、子どもの多い家庭はうれしいかなと思います。これはマンパワーの問題になりますので、すごく難しいと思いますが、私はそれがすごくありがたかったです。3番目の子の時は学区外の情報も手に入れて、上の子が小学校、幼稚園に入っていたので、支援センターに行かなくても1人で公園に行けるとして利用しなかったなど、今思いだしたところです。

私も閉じこもりがちな方の親子だったので、これも事例としてみていただけるとありがたいなと思います

あとは、閉じこもってしまって、虐待、放置につながるサポートが必要な家庭はどうすればいいのか、自分には当てはまるものがなく、想像ができないですが、物理的、物欲的なメリットがあると出てくる人もゼロではないと思います。お金とかではなく、何か利用できるものはないかと考えたんですが、地区の子育てサークルがフリーマーケットというかお古の譲渡会を開いています。入場料はかかりますが、その場でお古を無料で手に入れられて、自分のお古を出すこともできる場です。物を手に入れられるということで、ものすごい人が集まるんですが、支援センターの近くではなく、少し遠い体育館でやっているんで、それもセットで利用できると、来る人もいるのかなと思いました。

会長

ありがとうございました。3人のお子さんのメリットの有り無しの話がすごくわかりやすかったです。あと、お古のフリマ、これはいいアイデアで一緒にできるといいかなと思います。

委員

先ほど、SNSによって発信したらというお話がありましたが、若い人で市のサイトを見る人が少ないのであれば、普段利用している人たちに、ハッシュタグなどをつけてもらって、発信してもらおうというのはどうかなと思いました。

私も支援センターをよく利用していましたが、初めて利用するとき、場所はわかるんですけど、駐車場に止めて、中に入るときに保育

会長	園の施設内だったので、入り口に輪っかが掛けてあったりとか、頑丈に施錠されていたので、どうやって入るんだろうという感じでした。なので、初めて入る方は、すごく不安があるでしょうし、どうやって利用したらいいかわからないと厳しいと思うので、初めての人だけを集めた日などを月に1回でも設けてもらって、駐車場のところぐらいからご案内して、利用法の説明のようなものがあれば、いいかなと思いました。
会長	ありがとうございました。保育園の入り口は二重三重の鍵があったりしますよね。
事務局 (こども未来課)	<p>入りにくいであるとか、初めての時にどう入っていいかわからないというお話は、昨年から色々検証しているなかでよく聞く意見です。</p> <p>その点については、まず、園の関係者でなくても誰でも支援センターに入っていいんですよということを、しっかり PR できるように、今年度すべてのセンターに案内看板をつける準備をしています。</p> <p>今、初めての人が集まれる日を月に1回でもというご意見がありましたが、非常にいいアイデアだと思いますし、入りにくさであるとか、初めて入るときの緊張感を和らげることは重要な課題だと思っていますので、改めてご意見をいただき、やはりそうだなと思いましたし、取り組んでいきたいと思いました。</p>
会長	ありがとうございます。鍵がたくさんある物理的な入りにくさとママ友のグループができていて、とても入れないという、ハードとソフトの両面の入りにくさについて、対応していただけるということです。
事務局 (こども未来課)	今、案内表示について議会に補正予算をあげていて、12月18日に可決されれば、今年度中に設置できる運びになります。
会長	<p>家に閉じこもりがちな親子に関することから、これからの子育て支援センターに求められる機能等について、様々なお話をいただきましたので、これらをぜひ反映していただきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日の議事は終わりましたので、事務局にお返しします。</p>

事務局

熱心な議論をいただき、ありがとうございました。

次回第3回会議は、3月を予定しております。会長や委員の皆様のご予定を確認しながら日程を決めていきたいと思ひます。